

第447号
 2011.1.26(水)

友情の親善試合

河津聖恵さんのブログより

昨日1月25日付「しんぶん赤旗」文化欄コラム「朝の風」に感動しました。

22日、青く澄み切った冬空の下、関西学院グラウンドで高校生によるラグビーの親善試合が行われた。ちょっと変わった形式だ。今年度の全国高校ラグビー優勝校、桐蔭学園を始めとする7校の選抜チームと大阪朝鮮高級学校が、20分ハーフで対戦する。野球の甲子園、サッカーの国立益賜技場)、ラグビーの花園と言われ、高校選手たちは憧れの聖地を目指す。大阪朝鮮高級学校にとって花園は長い間、閉ざされた門だった。日本の高等学校に相当する教育を行っているが、各種学校扱いをされてきたからだ。彼らが花園に登場したのは最近のことだが、2年続けて3位。いまや新しい名門校だ。大阪朝鮮の中心はCTBのコン・ユイン(権裕人)選手だ。だがコン選手は2回戦で相手選手と激突、脳振とうと診断され、それ以降の試合の出場も禁止された。「こいつの高校ラグビーをこれで終わらせてはいけない」。高校生の友情が今回の試合を実現させた。昨年11月の北朝鮮の砲撃事件を機に、大阪府はこれまで20年以上支給してきた「授業料支援補助金 外国人学校振興補助金」の執行を保留、日本政府も「高校無償化」適用の審査をストップしている。そんな厳しい冬風の中、熱い友情の試合の笛が鳴った。(藍)

高校生ラグーマンたちの友情は、なんて素晴らしいのでしょう！(私はスポーツが苦手で敬遠していたのですが、段々好きになってきました)それに比べて大阪府も日本政府も恥ずかしいかぎりです。熱く純粋な魂を持っているラグーマンたちにこそ、日本を代表してほしい。

ちなみにこの親善交流試合の様子は、1月27日(木)放送のNHK「おはよう日本」で午前7時30ごろから、「笑顔のノーサイド」というタイトルで放送される予定です。もちろん、全国放送です！(※予定が変更になることもあります。)ぜひみましょう！

* 河津聖恵さんは詩人で、「朝鮮学校無償化除外反対アンソロジー」刊行会の代表として活発な運動に取り組んでいます。

こちらコリアンサポートセンターです

「眼科の医療費控除」(レーシックでもOK)

視力が低下すれば、めがねやコンタクトレンズを装着するのが長らく一般的だったが、近年これに代わる選択肢として人気を博しているのが「レーシック手術」です。

これは角膜にレーザーを照射して近視や乱視などを治療、矯正する手術の事です。

しかし、レーシック手術は保険適用外の自由診療、費用もそれなりに高額。医療費控除だけでも適用にならないものか？

国税庁では過去にこの様な見解をしめしている。「レーシック手術は眼の機能それ自体を医学的な方法で正常な状態に回復させるものなので、その費用は、医師の診療または治療の対価に該当する」として同控除の対象となることと明らかにしている。

では近視の人にとって最も馴染み深い「眼鏡」の購入費はどうかというと「日常生活の必要性に基づき購入されるものは、視力を回復させる治療の対価ではない」と、適用の対象外となる。ただし「治療の為に必要な眼鏡」と医師の指示で装着するものは「治療の一環」としてみられ同控除の対象となる場合がある。

低学年生が会館見学

先週の土曜日(22日)にウリハッキョの低学年生がソンセンニンと共に課外授業の一環として本部会館の見学に訪れました。

ハギハッキョや会館で行われる行事参加のために来たことはあっても課外授業となるといつもとは様子が違うようで、福島県在住の同胞数、支部の名前など一生懸命メモをしながら職員の話聞いていました。

27	28	29	30	31	2/1	2
木	金	土	日	月	火	水
		教研大会(休校)				